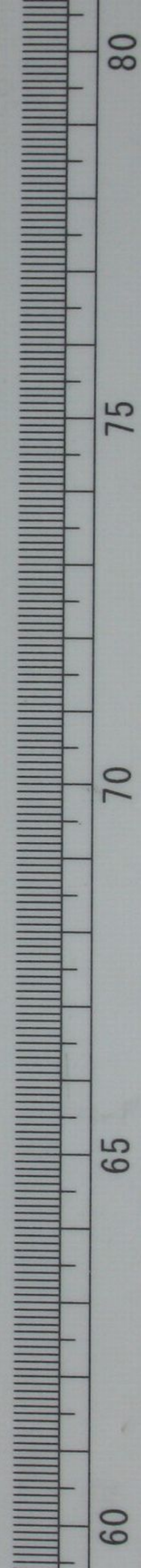




伊地知文庫
文庫20
368
5



文庫20
3670
5

弘 化 新 鑄

柳菴栗原信充編集

三編三冊

鎌倉管領

所領役考

應仁武鑑

江戸書林

播磨屋勝五郎

高 家 衆 一

小笠原大膳大夫清宗 三

武田刑部少輔信昌 三

武田上総介信英 九

大井越前守教光 十

木曾伊豫守義元 三

横瀬信濃守國繁 十

在國在郷外核衆 一

南部大膳大夫政盛 五

安東太郎盛季 三

田村右京大夫持顯 三

村上左京大夫滿清 三

武藤出羽守成秀 三

佐貫左衛門佐照 武 三

成田五郎左衛門尉資貞 丁 共

桐生左衛門尉重綱 卅

應仁武鑑卷一

長野右京亮業景 卅三

大森隱岐守實頼 卅三

大森左衛門佐持康 卅三

太田左衛門大夫尉持資 卅三

江戸但馬守通勝 卅三

江戸三郎通幹 卅三

京都將軍家所領役考卷第五



花咲屋新之助

栗原孫く函信充著

高家衆

郡國乃正丁一斗より出身者

五位より叙せし時ハ其子五位乃嫡嗣と云く課役を免
 せし既ニ他乃正丁と別れ其子も亦勲勞を以て又
 位を陞せし其子も亦課役を免せし累代郡國乃戸籍
 不課戸と注し其子が故に是を譜代乃旗と云又其身
 兵士を擧らば京上より衛士を番考課の最下依り
 其子兵衛を補ひ兵衛乃子又兵衛を補ひ代々禁闕の

藩籬を去る宿衛の官に任まらるるを譜代に侍と云侍と
を禁闕に侍衛を兼義あり又其身兵士に入ると云とも
殊別を不勲功あり其子亦兵士に入ると世々軍團に在
るを黨の兵士と云又皇胤五世迄を皇親と云を以て調
儀を免され不課戸大正六世より又位の子に准し七世
を絶蔭と云共又位の子と云を以て調を輸し徭を免
され八世以下に賦役を差科を系と白丁に同しと云
依る皇胤七世より又高家と云其理掲為又大臣の子
孫を以ては納言參議の子弟は皆是に不課戸あり皇胤
に准し高家と云へは是黨と高家と乃別あり鎌
倉の右大将頼朝卿の草創の時より伊豆守義範の八幡
殿の曾孫あり又の從父位下義重祖父の從父位下義
國上総介義兼の同曾孫あり又の從父位下義康祖父
の從父位下義國武藏守惟義遠江守義定信濃守遠光
等の新羅三郎の曾孫あり皆又位の子孫あり思ふ
幕下の近親たる三浦秩父の葉上總等の氏族の六孫
王以降の被管なり其等と一列たふへは以て自孫と敬
礼を殊にまへきと言をまへは終に北條九代の間と

集二七五卷一

云と云右幕下の時の定の如く新田足利武田小笠原
等の氏族の源氏一門の貴族とて崇教等倫み起て
位階の浅深を云ふ及を以てたへハ武田右衛門信義の
諸氏乃有官先如く等持院將軍家尊氏乃時と云
と云亦以定を改めらるる暇なく金く鎌倉の旧
派從せらせたり然るに關東の始ハ東國平均あり以
其礼式も多く闕如を辨や享徳中興いくとく由如く
此方蜂起を其妻を以て知へる依て其大徳を託
と云龍のとて

武田 清和源氏

享徳四年 生 家督

清和天皇孫
伊豫守賴義三男

義光 新羅三郎 刑部丞

義清 刑部三郎

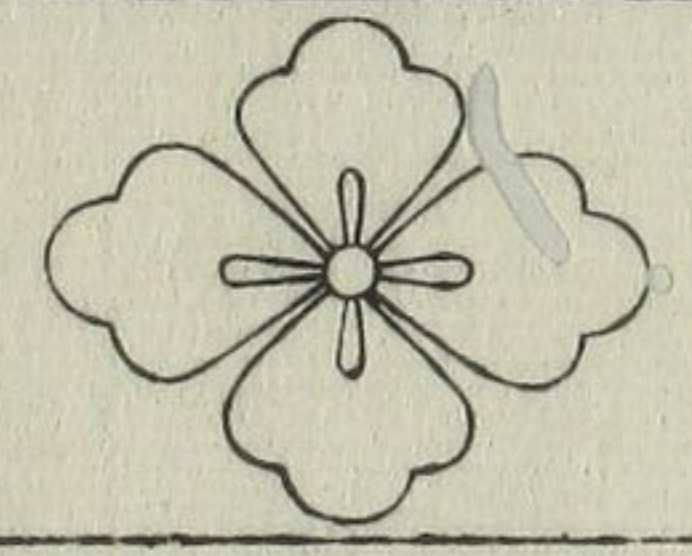
清光 黒源太

信義 武田太郎

信光 石和五郎 伊豆守
住石和館

信政 五郎 安藝守 護

信時 五郎 甲斐守



武田刑部少輔信昌

甲斐 巨摩二郡の田六万所

以獲縮之百萬束 貫文以米十八万

万石今量十石万石子百

六石石石斗石斗石

米六万九千九十六石一斗一升
余 七百石十俵余 武田家領

時綱

大郎伊豆守

信宗

彦六伊豆守

信武

孫六陸奥守 兵庫頭
九列探題

信成

二郎 刑部大輔

真信

四郎 左馬助
伊豫武田祖

信明

大井陸奥守

氏信

安藝守護
安藝武田祖

公信

兵庫頭

直信

彈正弼

義武

宍山四郎

米七子二百七十三石二斗余甲也及

守護職料

鎌倉館 化粧坂下

辰城 甲斐山梨郡躰躰崎 鎌倉より
四十六里

家光 山縣河内守昌常

二宮源九衛門尉守岡

馬場兵部少輔守房

肉負市京亮守秀

跡部上野介守隆

應永廿四年二月六日於
木殿山出家
明卷道光

信長 悪八郎 右馬助

信春

陸奥守
苅峯入道

信満

安藝守

信重

三郎 刑部大輔

基信

上野介

成春

吉田刑部大輔

信康

江草兵庫助

武春

下条伊豆守

信元

宍山修理大夫

女

上杉氏憲室

武續

栗原十郎

信久

市部七郎

信景

今井左馬助

満春

布施彦六

頼武

山宮三郎

信賢

巨勢宮内大輔

信清

安藝守

満頼

甘利七郎

信廣

倉科治部少輔

信守

弥三郎 刑部大輔
初信森

信昌

立郎 刑部少輔
永正二九十六卒

信繩

立郎 左京大夫

信介

宍山刑部大輔

信懸

宍山刑部大輔

信惠

油川彦八郎

永信

長手九郎

信行 小佐手宮内女輔

繩美 岩手四郎

基經

下曾根伊豫守

信秀 津金三郎

信賢 松尾三郎

賢信

小曾根中務大輔

信貞 葛山十郎

信名 御宿左衛門

信虎

左京大夫

晴信 大膳大夫

義信 太郎

信友

藤沼安藝守

信繁 左馬助

勝頼 四郎

女

小山田光俊妻

信綱 道通軒

信盛 仁科五郎

信實 河窪兵庫頭

義久 葛山十郎

信龍 一条右衛門大夫

女 今川義元室

小笠原

清和源氏

新羅三郎義光孫
甲斐守清光三男

遠光

加賀美三郎 信濃守

光朝

秋山太郎

長清

小笠原三郎 正四位下
信濃守

光行

南部三郎

光清

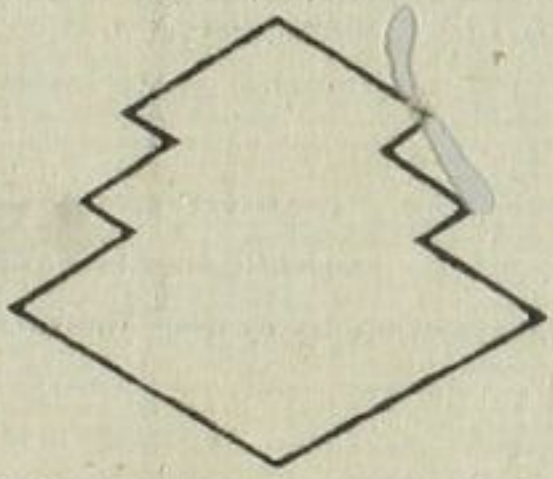
加賀美四郎

光俊

於曾五郎

長經

太郎 彈正少弼



小笠原大膳大夫清宗

應永卅四
寬正三

生
家督卅六歳

文明十七八年卒
喜更正親

信濃筑摩

安曇

伊那之郡乃内

田七子又百町以獲稻之百七十
五万束 以直錢廿二万又子貫文
以米十八万七千七百石
今量十八万八千八百石
十一石八斗七升又合
米八万六千七百七十石一斗九

長房 阿波守護 三好祖

長忠 信濃守

清經 源三郎 赤澤祖

長能 修理亮 下条祖

長實 五郎 田村祖

盛長 六郎 上野祖

長村 七郎 米田祖

長政 信濃守

長氏 大膳大夫

長直 勅使河原三郎

宗長 孫三郎 信濃守

長綱 益田三郎

兼頼 九毛六郎

政宗 山中四郎

光宗 常盤十郎三郎

經氏 津毛三郎太郎

恭氏 小笠原又三郎

宗康 大膳大夫 中將

升余 四斗八廿一万八斗 小笠原

家領 九百廿八俵余

米九子九十一石八斗九升三合

余信濃守護職料

京都館 田條烏丸

鎌倉館 扇谷

居城 信濃筑摩郡深志 鎌倉 七十四里

次城 同 青柳

同 井河

家老 常盤壹岐守

下条伊豆守

貞宗 彦五郎 信濃守 永仁二四十二生於

宗満 増田掃部助

貞長 彦三郎 備前守 京小笠原祖 入道興元

長基 孫三郎 彈正次弼 長秀 修理大夫

清政 中川遠江守 深志 長將 播磨守

氏長 島立左馬助 松尾 政康 大膳大夫

光康 六郎 遠江守 家長 六郎 甲斐守

長宗

伊那四郎

宗基

彈正少弼

貞忠

六郎 左衛門尉

朝康

治部少輔

飛騨小笠原

信貴

孫六郎 信濃守

信領

掃部助

持長

大膳大夫

清宗

大膳大夫

長朝

民部大輔

貞朝

修理大夫

長棟

修理大夫

長時

大膳大夫

貞政

治部大輔

定政

兵庫頭 德菴齋
武田信玄師

信定

松尾民部大輔

喻益

瑞光寺

統最

永福寺
三省軒

貞種

孫三郎
洞雪齋清藏

長政

下總守

信綱

民部大輔

里見

清和源氏

清和天皇七代孫
足利義國長男

義重

新田大炊助 從五位下
贈鎮守府將軍

義範

山名伊豆守

山名祖

義俊

里見太郎

住上野國碓氷郡里見郷

義成

里見冠者 伊賀守

義清

田中五郎

重政

里見十郎

義基

里見太郎 刑部少輔



里見民部少輔義實

室真里谷入道女

長享元四七年葬
安居國白濱

安房郡田口子之百六十二町

綿二百十八萬石 以直錢百石

貫文貳萬九千九百石 今量

十萬六千五百石 石斗七升八

合石 米貳萬二千二百三十二石八斗七升二合

義秀

刑部少輔

忠義

刑部少輔

義胤

刑部少輔

義連

左近將監陸奥守

基義

刑部少輔

家兼

大炊助

家基

刑部少輔

嘉吉元年於結城戰死

義實

左馬助 刑部少輔

長亨元四七卒七十三

成義

左衛門佐 刑部少輔

女 吉良妻

義通

上総介

實亮

左兵衛督

室正木大膳女

義亮

室万喜少弼女

義弘

室生實御所姫君

義頼

太郎 室北条氏政女

梅五丸

安房守侍從 天正生

義康

義豊

太郎 竹若丸

七勺 比斗入十二万石 里見家領

米又子二百九十一石六斗九升

余安房守護職料

鎌倉館 兼官小路

辰城 安房國安房郡白濱 鎌倉より海陸 十二里

家光 三浦少輔三郎

木曾右馬允家吉

堀内九衛門大志貞本

嘉吉元年義實生年廿七父と共小

結城小幡城せし三浦介を語ふ

べしと相摸ふ立越し彼ふ

城隔志は義實小舟に乗る安房

必ふ渡るけ時安房の神餘り即

等山下九郎の尉謀叛し其を殺

其地を押領し同必任人安西九相

謀り山下を殺し其地を分り安西

又東條を語ふ九を討滅す

於九山下の殘黨安西を討つ主の仇を復せんを謀る
折節おれハ義實の安西來るを喜ハ推す大將とあり安西
を攻安西叶を以降冬を義實を東条を亡其地を併
遂に安房一邑を平均一白濱の城に居

武田

清和源氏

永享二年生
寛正四年 月家督

清和天皇六代
新羅三郎義光十三年

信満

武田大膳次男 明卷入道
應永廿四二六自害

信重

武田刑部大輔
室徳三二廿四卒

信長

武田悪八郎 右馬助
上総守護代 住鞠谷

女

里見刑部少輔 義實妻

信英

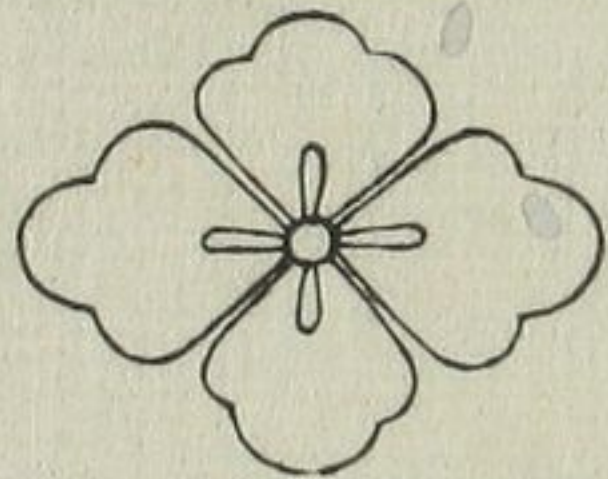
武田上総介
住鞠谷

信友

武田六郎 兵部少輔
住籠南

信胤

武田兵部少輔



武田上総介 信英

室結城播磨守直廣女

鞠谷
天寧山真如寺

上総

夷藩 望陀二郡二十六郷 名

田畝を供さし今 土人傳る真里谷

之而騎乃軍賊ありと云ふ就る

推考を以てハ一萬八千貫文許の

禄と知へ 田六百町米今量一
万二千六百石十六

信榮

武田兵部少輔

信政

武田三河守

不入斗又升を得へく守護料七百廿七石云斗二升七合又白を収めく餘分六石九百九石六斗一升一合を鞠谷家領と以て斗入一万七石二百七十石俵余あり

鎌倉

清涼寺谷

法泉寺谷乃北海藏寺乃門前

居城

上総夷瀧郡鞠谷

鎌倉より三浦通海陸共廿二里

家老

大井

清和源氏

清和天皇六代
新羅三郎義光六代孫

長經

小笠原彈正忠朝

長房

小笠原阿波守
阿列小笠原祖

長忠

小笠原信濃守

信列小笠原祖

朝光

大井太郎 信列佐父郡
大井庄地頭

光長

大井小太郎

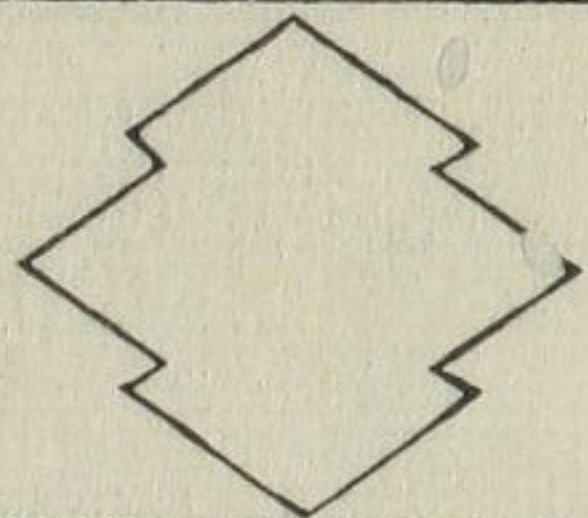
弘安七八卒

時光

大井弥三郎

光泰

大井三郎



大井越前守教光

室武田布施安藝守信清女

永享十二年八月 家督
皇徳元年十月 従五位下

信濃

佐久郡大井庄田畝乃負數

未詳一書云大井一萬八千貫

と云今按一萬八千貫ハ凡田

六百町許子當不獲稻之十萬

東云未一万石今量一万石
千石百石十六石又斗八升

行光 大井三郎兵衛佐

行時 大井三郎三郎

朝行 大井小四郎

定光 大井右衛門佐
永徳三十三卒

懷光 大井陸奥守
應永廿四廿七卒

持光 鎌倉持氏卿昵近
永享十一年瑞泉寺昌在
西堂携永壽王丸逃來
同十二年結城籠城於碓氷
嶺合戦七月廿六日討死

女 武田布施安藝守信清妻
昌在西堂母

女 持氏卿上臈女房

女 武田吉田刑部大輔成春妻

教光 大井越前守

教長 大井伊豫守

成光 大井小太郎佐渡守

宗成 大井民部少輔

旗入器仗子用ひらき大足然家小笠原乃祖加賀美遠
光乃清光乃之男と云を以て蓋ふ大不美を畫て致と

米六千九百九石六斗一升一合

二勺又撮 斗入一万七子二
百七十口俵一升余

大井家領

米七百廿七石二斗二升七合八

勺信濃守護職料

鎌倉館 山内明月院東

居城 信濃佐久郡小諸 鎌倉より
五十二里

家老 輕不和小四郎

曾根三郎右郎

小川五六郎

信濃國乃大井氏小笠原流と武

田流と乃別あり其小笠原不出

家ハ松皮菱を用ひ 或ハ丸の内ハ

武田ハ分あり流ハ花菱を横不用

ハ柳花菱ハ楯無鏡乃下金物ハ

後冷泉院恩賜乃器械ハ是ハ

朝思乃光榮を顯さんハ為ハ是を

為^{あせ}里^ら 松鱗^{まつりぼ}ふ似^に大^{おほ}木^きの松^{のまつ} 小笠原貞宗朝長乃時よ里今乃
 如^{ごと}く小中^{こちゆう}大^{おほ}乃^の之^の養^{やし}を^を用^{もち}ひら^らあ^くと^と 王^{わう}字^の象^{さう}る^る 依^よる
 貞宗朝長乃前ふる^{まへ}と^と家々^{いえいえ}ふ^ふの^の松^{まつ}皮^{かわ}養^{やし}を^を紋^{もん}と^と以^もて^て武^ぶ田^{でん}
 流^{なが}乃^の大^{おほ}井^いの^の陸^{りく}奥^{おく}守^{しゅ}信^{しん}武^ぶ朝^{てう}臣^{しん}乃^の之^の男^{おつ}陸^{りく}奥^{おく}守^{しゅ}信^{しん}明^{めい}を^を組^{ぐみ}と
 信^{しん}明^{めい}ふ^ふ又^{また}子^こあ^あ里^り長^{ちやう}を^を彈^{たん}正^{せい}妙^{めう}河^か春^{しゆん}明^{めい}二^にを^を北^{きた}條^{じょう}大^{おほ}和^わ守^{しゅ}
 信^{しん}下^げ云^いを^を上^{かみ}野^の介^け信^{しん} □ と云^いに^にわ^わ光^{こう}善^{ぜん}寺^じ祥^{しやう}雲^{うん}菴^{あん}乃^の住^{ぢゆう}持^ぢ
 又^{また}の^の大^{おほ}和^わ守^{しゅ}明^{めい}仲^{ちゆう}兄^{あに}乃^の子^こと^とあ^あ里^り北^{きた}條^{じょう}と^と称^{なづ}せ^せ

木曾 清和源氏

六條判官為義三男 近衛院坊中帶刀先生義賢三子

義仲 木曾左馬頭正五位下 征夷大將軍

義隆 清水冠者 母中原兼遠女

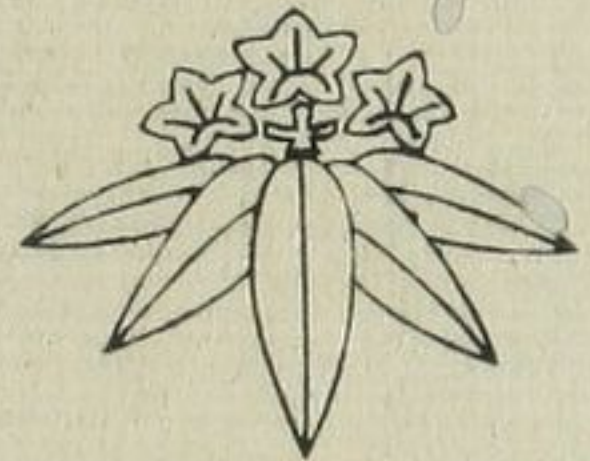
義重 木曾四郎 宗一

義基 朝日三郎

義茂 木曾刑部少輔

基家 木曾源太郎

家仲 沼田右馬助



木曾伊豫守義元

信濃 筑摩郡木曾谷 伊那郡内宮

田郷 松島郷 安曇郡大野田角平

伊豆 等郷 二万二千貫と云^いつ^つ依^よる

八九七百六十六町餘乃地と相^あり^り相^あり^り

まへ^へ獲^い稻^ね三十八万二千束^いぬ^ぬ准^{じゆん}

家教

木曾兵庫助 讚岐守
築三富野城

家村

三富野又太郎 讚岐守

家道

木曾七郎 伊豫守

家頼

木曾七郎 伊豆守

家親

木曾彈正母御
淨政

親豊

木曾右京大夫
須原定勝寺開基

信道

木曾式部少輔

豊方

木曾源太郎
長福寺

家方

木曾左京大夫
定勝寺

家信

木曾伊豆守
上松城主

家益

野尻右馬助

家秀

野尻三郎

家豊

木曾兵部少輔

家範

三富野左京亮

家季

野尻右馬助 為家秀子

義元

木曾伊豫守 左京大夫

義在

木曾左京大夫

玉林

須原定勝寺三世

米一万九千百八十石今量一万
八千八百七十一石九升八合余

米八千八百廿一石二斗七升餘斗

入二万二千石
十二俵七升余 木曾家領

米九百廿八石八斗八升八合七勺

又攝信濃守護職新

鎌倉館 山内

居城 信濃筑摩郡野尻 録倉より
八十四里半

家光 贅川越後守重直

野尻右馬助家季

三富野兵庫允

木曾土人傳云中之権頭兼遠ハ今

宮腰と福島乃間あると田村入住

と田圃乃内ふ古松一株あり即兼

遠乃館址と云は義仲朝臣あつた

生長し後ハ宮腰乃東宮原ハ城ヲ

居玉ふとかや仁安元年相原ハ幡

官入於く元服志玉ふとそ 今宮腰

ハ幡是
あ時ハ十三歳元暦九年正月廿一

義康

木曾源太郎

義昌

木曾伊豫守

義豊

上松三郎次郎

義親

高遠太郎

家昌

上野次郎兵部少輔

家景

馬場三郎常陸介

家満

贊川四郎刑部左衛門
曆應二領贊川

家重

千村五郎

横瀬

清和源氏

新田贈大納言義貞卿末子
新田左中将義宗朝臣為子

貞氏

新田六郎

正慶三生父義貞討死時其
歳隠于越後 觀應二取于上野
為横瀬近江守子林横瀬

貞俊

横瀬新六郎

貞國

横瀬信濃守

貞勝

横瀬對馬守
新田今泉城主

國繁

横瀬信濃守 入道宗悦
長亨二五十五卒

國隆

矢場總左衛門
新田矢場城主

日粟津泉ふ減玉人後之即義基ハ

明日檜川乃奥ふ潜居玉ハ一ハ

世人明日檜川と称せしと云 後ハ

朝日と云明日檜川ハ葦原の奥ハ

て今ハ味吹川と云ハ或ハ義仲朝

臣ハ安ふ任 義基ハ代讚岐守家教

世ら述り 始之富野城ハ後ハ任其玄孫

親豊ハ至之頗大ハ其ハ代家方

野尾ノ城を築之任之けハ家方

六代源太郎義康福島ハ後ると云



横瀬信濃守國繁

室 武田下曾根中務少輔女

康正元年 家督
文明五年 入道宗悦

長亨二五十五卒葬
山田郡吉澤山寺

上野

大室七郎

松蔭私諱ハ見也之

處ハ

吉藏

榛澤郡横瀬郷 属村

ハ

横瀬宗悦之百八十條

騎之瀧陣勢揃乃書ハ見也上野

衆ハ六十式貫一騎と云ハ依之

業繁

横瀬信濃守

繁興

横瀬大守助

國經

横瀬左衛門佐

繁通

横瀬下野守

成繁

横瀬信濃守

繁雄

鳥山堂隆介

繁頭

金井平五郎

國繁

由良信濃守

顯長

長尾但馬守

氏繁

由良式部大輔

貞繁

由良出羽守

詮繁

渡瀬左衛門佐

遠列横瀬賀城主領
三万石文祿四七配流於碓氷
峠自害

推小二万二千六百六十貫文小

當子田七百八十町之段之數

許小准之稻三十九萬二千六百

束を獲へし米一万九千六百廿

石不之今量一万九千三十一石七

斗三升六合二勺八撮五厘

守護料九百五十一石八斗八升六

合八勺一撮二勺を収め九千二百

石七升六合余に斗八二万二千六

百俵余あり横瀬家の祿と知へ

里
厩城上野新田郡金山 鎌倉より二十一里

家老柳井江郎九衛門尉

新田郡上江田

村地頭又ハ
矢内と小書

大澤美濃守

同郡下江田村乃地頭

林伊賀守

佐位郡伊勢崎の城代

林越中守

横瀬と云ハ武藏榛次郡乃在名由

良と云ハ新田郡乃地名之宣化天

皇御孫多治比古五十七代丹三冠

者經房 武彦七黨乃乃次男中村悪
内丹黨をり

三時親をりり横瀨御不任
横瀨三郎と称を又經房乃弟秩父
丹又基房二男新里丹之大夫恒房
乃孫光綱由良々々位せし由良
三郎尤近將監と名乗る新田家
不隨從せし横瀨由良の祖先也
と阿王實不也

在國在御外様衆

陸奥出羽乃西國ハ往古ヨ

里邊要乃疆々々防禦の備えよ里疎から以ありし
基氏卿關東下向の始西國平均々々武命を崇奉を以
南朝乃綸旨を捧けし白旗を揚以て英後を麾く者
不邊一即外蕃の警衛ハ言ふたらん祖自界を侵伐せ
らる以經疆乃尺寸を失をるを以て專と以られ陸
奥不管領出羽々々按察使を置るを以て所以あり
尔後西國平均不圖東不隸と云と巾島雲の散卒京
鎌倉の風々々馴をた我御國の固執を改革するの理

を知らず我本居を離れさるるを以て徳と人是在國礼と
 云者を置る由縁なり其より去る兩國のさう非を
 関東の管する諸國に往々あせあり又一郷一荘に住
 ちく事ある時不臨く催促不従ふものあり是を在郷
 衆と云其分限不依て軽重の品あふへ一或ハ強弱の
 敵せしふより比鄰の大名不附噴く終不其家人の列
 不就ものあり名望のつと田録の知さる田録あり
 世系の供さる者あり今姑く其事蹟を得るもの
 みを爰不條列と

伊達 藤原氏

大織冠鎌足

不比等 淡海公

房前 北家祖

魚名 左大臣 四条家祖

鷲取 中務少輔

藤成 伊勢守 依藤太秀郷祖

藤嗣 参議 弘仁三苗卒四五



伊達大膳大夫持宗

陸奥伊達 信史二郡長井荘の田

一万余町以獲稻六百五十万束
 以直錢三十二万貫又以米廿七
 万石子石今量廿六万石子六百
 八十六石
 七十石并
 米十二万石子石百七十六石二

高房 越前守

山蔭 中納言

時長 仁和四二羅處六五

利仁

中正 從四位上 左京大夫

安親 正三位 參議

為盛 從四位上 越前守

定任 從四位上 大和守

實宗 從四位下 常陸介

秀高 皇后宮少進

家周 大舍人

光隆 待賢門院 非藏人

朝宗 高松院藏人 文治年

宗村 中伊達郡下向住之

義廣 栗野二郎

朝定 左衛門尉

為宗 實伊豫守 義經子

為重 常陸冠者

伊達二郎

斗余 四斗八二十一萬六千六百九十俵二斗余 伊達

家領

米一万三千三百三十石不云斗

大升余陸奥守護職料

京都部 靈山

鎌倉部 月教谷

居城 陸奥伊達郡伊達 倉倉 八十里

艾城 同 靈山

同 藥川

同 半田 此城の跡不云 十三処乃觀音

あり栗野二郎義廣 造立の像ありと云

家老 栗折修理進宗俊

中村兵部少輔宗次

伊達小冬郎宗家

藥川左衛門守

政依 太郎藏人 宗綱 小太郎

基宗 孫太郎 行朝 修理大夫 二本行宗

宗遠 彈正少弼 至徳二卒 政宗 大膳大夫 應永三九四卒

應仁正金

資綱 伊達三郎

為家 伊達四郎

植宗 左京大夫 妻上杉定實女

氏宗 兵部少輔 應永十九年卒

成宗 兵部少輔

晴宗 左京大夫

兼新松鶴丸

義信 大崎左衛門督

實元 伊達兵部少輔 住信夫郡大森 初上杉定實養子

持宗 大膳大夫 文明元正八年卒

尚宗 大膳大夫

輝宗 左京大夫

政宗 中納言

南部 清和源氏

清和天皇八代 如賀美遠光三男

光行 南部三郎

實光 彦二郎

時實 又五郎

政光 孫三郎

宗綱 彦三郎

宗行 彦五郎

祐行 彦三郎



南部大膳大夫政盛

陸奥 磐手 二戸 之戸 九戸

北郡 田名部六郡の田一万之五
之百町 獲稻之百九十九万束
奥地ハ一町之百束を准之以成
米十九万九千石 今量十九
万二千石 百六十
九石一斗一升余

集二氏鑑

十九

所八仁正金...

政連 孫三郎

祐政 彦六郎

茂時 右馬頭 於鎌倉自害

信長 伊豫守

政行 遠江守

守行 大膳大夫

義政 庄司 永享土卒

光政 彦三郎

信時 左衛門尉

米七万七子二百八十七石六斗

口升六合余 口斗入十九万二千

奥地々口么六民 南部家領

尺城 陸奥磐手郡大南部 廉倉より 百五十二里

支城 同 二戸郡一戸

同 二戸郡八戸

政盛 大膳大夫 助政 與三郎

時政 彦三郎 通繼 彦三郎

信義 修理大夫

安東 安倍氏

神武天皇御宇長髓茂見安日 故于津輕安東浦根為氏

安日 崇神時 安東

致東 一條院時 國東

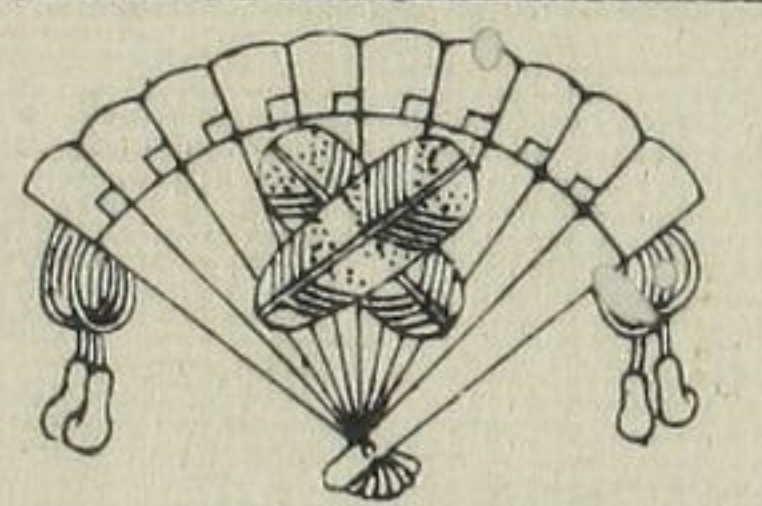
頼良 頼良

貞任 厨川三郎 高星 万平代丸 住津輕藤崎

亮恒 安東大郎 貞秀

亮勢 安東大郎

貞季 安東大郎 妻北畠顯家御女



安東太郎盛季

出羽 秋田 檜原二郡乃内田六子

七百町以獲稻之百之十又萬束

以直錢廿万子貫文以米十六万

七子又百石今量十六萬二子

斗七升又合 米七万七子百又十七石之斗二

二氏益成篇一

盛季

安東太郎 号湊安公

庶季

安東三郎 号下国安東

成季

伐秋田取之自号秋巖介

惟季

安東三郎

昭季

安東三郎

實季

安東三郎

友季

愛季

田村

坂上氏

應神天皇廿年來朝
後漢靈帝曾孫

阿智使主

阿多倍

志努直

駒子直

弓束直

首名 大義冠

大國

大錦上

犬養

正四位下 右衛門督

新田磨

從三位 兵部卿

田村磨

正二位 大納言

征夷大將軍 陸奥
出羽按察使 弘仁五廿三歲
五十四歲



田村右京大夫持顯

陸奥

田村郡乃田千石百町代獲稻

七十石万束 以直錢 12万石子貫

百石今量 2万石子之百

六十六石 2斗七升 1石合

米一萬七千二百七十石余

12万石子百 田村家領

八十石依余

升八合余 12斗八十九万二千石
八百九十三石依余 安
東家領
米八千五百廿一石八斗二升二合
余出羽守護職料

鎌倉館

居城 出羽秋田郡秋田城 鎌倉より
百五十六里

家老

淨野 正四位下 内野

頭磨 相摸守 古哲 栴田村氏

顯谷 藏人大夫 右衛士督 平顯 藏人大夫

友顯 下總守 忠顯 正五位下 吉顯 常陸介

長顯 壹岐守 朝顯 尾張守 行資 六郎左衛門尉 兼顯 左京大夫 政顯 治部卿

則顯 左衛門佐 光顯 綱顯 遠江守 輝顯 左京大夫 下總守 遠江守 初輝定 正慶三屬頭家卿

家吉 左京大夫 滿顯 持顯 右京大夫 直顯 左京大夫 大膳大夫

盛顯 大膳大夫 義顯 大膳大夫 隆顯 左衛門大夫

村上 清和源氏

清和天皇四代 河内守賴信三男

賴清 從四位下 肥後守

仲宗 筑後守 從四位下

顯清 白川院藏人 依事配信濃国住村上

為國 崇徳院判官 号村上判官代

安信 村上二郎

信村 修理亮

胤信 修理亮

米千八百十八石余陸奥守護職料

居城陸奥田村郡之春 鎌倉より 十二里余

家光

寛正二 家督共

上

村上左京大夫滿清

信濃埴科 更級 佐久之郡の内

田之千七百町以獲稻百八十石

萬石 以直錢十一万石子貫文以 未九万二千石而石今量八

万九千七百石

米一十二万二千六百九石二斗六升

應仁此錄卷一

信泰 孫四郎

義國 左衛門大夫

賴國 信濃守修理大夫

國衡 越後守

國清 左京大夫信濃守
寬正二五七卒

滿清 左京大夫
明應三十士卒

賴清 左京大夫

賴衡 信濃守右京亮

義清 信濃守

武藤 藤原氏

大藏冠藤原氏
田原藤太秀卿五代

修行 近江掾
号近藤

行景 左衛門尉

景親 駿河權守
号島田

景重 島田八郎矣

景賴 島田武者河
号武藤

賴平 武藤大藏丞大鹽勘

賴賢 鹽物太郎
新中納言知盛候人

九倉余 田平八十万六百 村上家領

米田子 田百八十六石一斗八升

六倉余 信濃守護職料

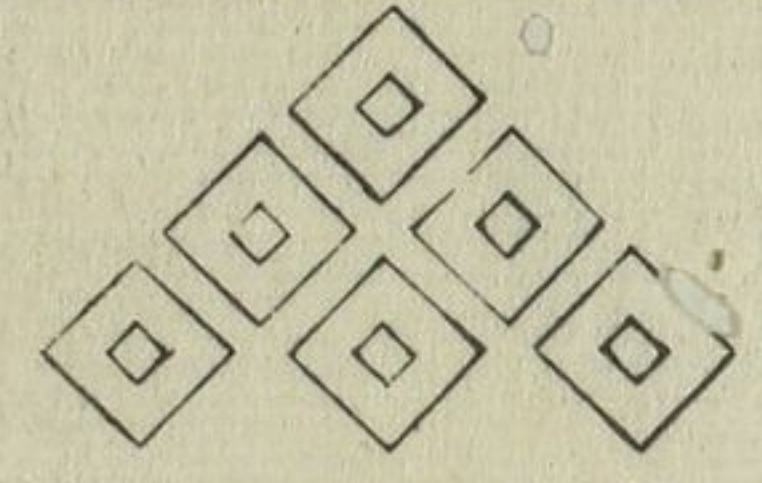
鎌倉館 山内

尾城 信濃埴科郡桂尾 藤倉より 六十里

家光 屋代左衛門志忠向

夏月次郎冬郎

成澤越前守且親



武藤出羽守成秀

出羽 田川 飽海兩郡田六石三百

町乃 獲稻三百十八萬東 八万九千

貫文 氏米十八万七石八斗八升 今量

朱七万二石八斗八升 九斗一升

資賴

武藤小次郎
初仕平家 文治7為

囚人被預三浦義澄五年
正月十九日以平胡錄九緒故
實被恩免賜出羽莊內

氏平

大泉三郎 左衛門尉
奥州守護

宗平

武藤三郎
京守護

親氏

武藤大泉太郎
播磨守

教氏

武藤大泉太郎
播磨守

淳氏

武藤大泉三郎
出羽守

建氏

武藤大泉左京亮
田川郡大山城初築
之住

政氏

武藤大泉左京大夫
讚岐守 羽黑山五重

塔本願 三月七日
卒法名法山道雄

滿氏

武藤左近將監
襲長盛家督

持賴

武藤三郎三郎

教政

武藤左衛門佐

成秀

武藤左京亮
出羽守

澄氏

武藤四郎三郎

氏說

武藤四郎

氏俊

武藤左京大夫

八合一勺二撮入 四斗入十八万

依一 武家領 莊內土人傳云武

斗余 武家領十九万八

勺とそ蓋今時乃稅帳不流ある

米七斗六百二十六石九斗三升八

合七勺又撮出羽守護職料

鎌倉信 武家屋鋪

居城 出羽飽海郡大梵字 鎌倉より
百廿七里

家老 高坂衣馬允

藤澤左近將監

出羽國ハ新銅八年九月己丑始

置れ十月丁酉朔陸奥最上置賜二

郡を割く出羽國ハ隸と續日本紀

不見之夫是代國乃起原亦且又

田川飽海兩郡を庄内と云ふ新銅

七年十月尾張上野信濃越後民各

二百戸を割靈龜元年九月信濃上

野越前越後置賜上乃百姓各百

晴時 武藤左京大夫從五下
天文十廿九年卒

晴親 武藤新九郎
天正九八朔卒

義氏 武藤四郎左京大夫出羽守
天正十三六自殺卅三

義興 武藤兵庫頭實義氏
妹九岡兵庫頭妻所生

義忠 武藤太郎左衛門
為長氏

女 東禅寺右馬頭妻

義勝 武藤出羽守 實本莊
重長子

資能 太宰少貳 豊前守
子孫別出

賴茂 太宰大貳 左衛門尉
武藤小二郎 左衛門尉
太宰推中貳 弘長三

景賴 年出家心蓮文永四八卒六
十 鎌倉評定報

景泰 武藤左衛門尉
太宰推中貳

資平 武藤出羽守

盛氏 武藤播磨守

詮氏 武藤出羽守

長盛 武藤出羽守
初築大梵宇城居之
世稱大梵字館 無子以筒
姓滿氏為嗣子

師氏 武藤左京大夫小郎
住松尾

戸を割養老元年又曰國乃民各百
戸を割同二年東海東北陸三道
乃民各二百戸を割出羽國乃柵
戸不配らた是續日本紀以二千
不配らた是續日本紀以二千
曰百戸ハ軍防令不邊郡乃人居ハ
城堡乃内不安置一莊舍を置て農
時不ハ莊田不就之管作せしむと
云莊舍庄田乃地不家を以て莊内
と号し不不へ一丸岡飽海郡。越
前北郡

木股 田川郡。越前乃民の
前今三郡 等ハ越前乃民の
莊田赤川飽海郡。信白鳥 同上。
濃水内郡 同上。
等ハ信濃乃民の莊田夜島 同上。
尾張愛智 龜崎 同上。同青塚 同上。同等
郡 龜崎 同上。同青塚 同上。同等
ハ尾張の民乃莊田坂本 田川郡。
上野碓氷 郡 田中 同上。同ハ上野乃民の莊
田中 同上。同ハ上野乃民の莊
田鬼伏 飽海郡。越前乃民の莊
後頭城郡 鴨田川郡 同上ハ越
後乃民乃莊田不不故不其本國
乃地名をあらうも後せしと知へ

武藤左京大夫

其あつて武後資頼を莊内諸士乃旗頭と為さしむ此柵
 戸乃長不補せしを以て又莊内坂田乃民小二十六人乃者と
 云ありと聞是ハ出羽兵士一千六百又十人 三代實録元慶
 不見 三十三隊と見けく三十三人を隊長とさし外ハ小毅
 一人主帳二人 軍防令 あまの都合二十六人とあふ即去れ
 軍團乃遺法を徴する不是里

佐貫 藤原氏

大織冠孫房前大目長子 從五位下鳥養三男

小黒磨 大納言正三位 延曆十七薨

次高 母佐貫庶司中臣島丸女 佐貫太郎

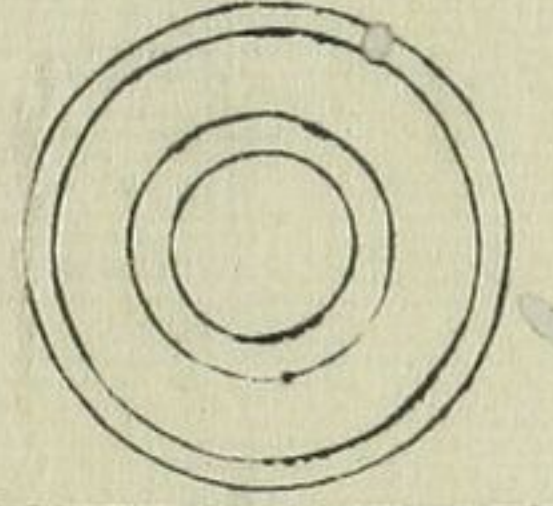
資綱 次郎太郎 住赤岩郷 号赤岩

嗣綱 太郎 左衛門尉

利綱 彈正忠

良綱 中太郎

良遠



佐貫左衛門佐照武

室 佐野左馬助重綱女

明應二三四卒 赤岩堂山

上野 邑樂郡佐貫庄田千二百所

以獲稻六十萬束 以直錢三十六万 貫文以米之万

石今量二万九千 九十三石不寺斗之

米一万石八斗十九石二斗二升二合

石斗入三万石石斗 佐貫家領 石十八俵二升余

良高 右京権少屬

良澄 右馬大允

光綱 河内少掾

照景 治部大録

綱輝 太即四郎

廣綱 四郎大夫 初築青柳城 實足利重光子

廣家 太即

廣継 瀬戸井五郎 承久三討死

廣時 三林十郎 住邑樂郡三林村

秀綱 大即左衛門尉 号小泉

時綱 古戸九郎 住古戸村

時秀 大輪又太郎 住大輪村

照兼 三郎次郎

照興 左衛門佐

照武 左衛門三郎

照永 小太郎

勝光 安房守 山城守

照光 山城守 初勝光 天文十四七卒葬赤岩

米千石百又十四石六斗八升又合上

野守養職料

米一万二子八百十九石二斗二升二合

又勺 邑樂郡中乃地士海老瀬 大窪技倉伊谷因羽付千

津井梅原古海河股須賀三林 瀬戸井舞本篠塚赤堀小泉古

戸及川成島青柳本崎福島本 乃氏族了領と云高辻形り

鎌倉館 大倉村

居城 上野國邑樂郡青柳 鎌倉より 二十一里

家老 俵坂大郎秀行 同郡舞本城

諸野因幡守秀勝

小曾根玄蕃助正俊

佐貫庄と云は大織冠後京内大臣 鎌足

乙巳年功とハ大化元年乙巳乃歳 入庶大臣を誅せしを云續日本

紀ふたの功世々不絶と云定あはは 淡海公贈大改大臣 房前

房前公乃庶長子後又位下鳥養其 子小黒磨あつる住

乃貢を沙

乃貢を沙

郷堂山 大覺院本誓法蓮
初築館林城移青柳

照忠

山城左衛門佐
仕光源院義輝將軍在京
後住館林 弘治三二朔卒

照康

但馬守
永禄九八廿卒
豊六 弘治二生

照景

女 長尾但馬守景康妻

と〜〜 莊務を司〜の時平公乃家絶〜の仇貫庄を止ら
〜良高以来の地頭職と称〜豊六照景より十六代相續せ
〜長尾景長を婿と〜館林乃城を譲り仇貫家廢と

成田

藤原氏

應永九年 生
同廿七年 家督

大織冠鎌足公長男
淡海公十代孫
兼家 東三条攝政太政大臣
從一位 法興院

道隆

中關白内大臣
御堂攝政關白受命
從一位 法成寺

道長

當時攝家清華關院
寺家々之祖

伊周

内大臣
母從二位高階成忠女
遠峯貫首 児玉黨祖

伊行

從五位下式部大輔
下向武藏藩羅郡

任隆



成田五郎左衛門尉資貞

香華地 大田庄成田
龍淵寺

武藏

幡羅郡埜玉郡乃内千百六十
七町以獲稻八十八万二千石百束
以直錢三万五千貫文以米二万九
千百七十八石今量二万八千二百
九十三石三升九合
七勺又撮了當る
米一万二千石百二十九石一斗九升

府心仁正録卷之七十一

助隆 式部大輔 武藏守 住行田

次家 武者所衆 左衛門尉 住行田

行隆 別府三郎

助次 奈良三郎

助繁 玉井四郎

隆政 成田三郎

家政 成田五郎

家次 成田三郎 右馬允

次隆 成田三郎

女 本間大郎妻

宗政 成田太郎

家兼 成田五郎

時隆 成田太郎

家時 成田五郎 請和巷清順大和尚於

武列幡羅郡太田莊草創龍淵寺 應永七三三卒 淵林院切 宗男

兼氏 成田三郎

資貞 成田五郎左衛門尉 妻太田左衛門大夫資清嫡 住別府館 又築成田城

之合八百余 田斗入三万二千六百九十一俵之斗九升之合八 成田家領 白余

武藏國守護職料 成田家分限帳を考へて身

ハ二千貫文子貫文小至里小給 之十貫文とあり其穀録を推考

之數入十貫文と田之段之畝餘 とい米八石之斗之升之合餘

八石之升一合 九俵之担余 田斗之合余を納め餘米今量七石

六斗七升七合あり 内三石八斗三升八合 又白田撮余ハ成田家

俵余不當子 今乃十俵式人技抄の 是成田家録を制する法乃一端を

知不足は

鎌倉館 明月院乃後

尾城 武藏國埼玉郡成田 鎌倉より 廿八里

成田正金

親泰 成田下總守中務大輔
入道宗蓮移西別府

長泰 成田下總守
郷築成田城

氏長 成田下總守

氏俊 成田左衛門佐

氏範 成田左衛門尉

女 甲斐姫仕関白秀吉
請父本領

重長 成田新十郎

桐生 藤原氏

河邊左大目魚名公茂
鎮守府將軍秀輝六代孫
桐生小太郎

綱元 治承四年從賴朝御當
主川合戰有功 文治二年賜山
田郡入部住居館村

勝綱 桐生太郎

泰綱 只上次郎

綱氏 桐生三郎 兵庫先

宣綱 桐生太郎 右馬允

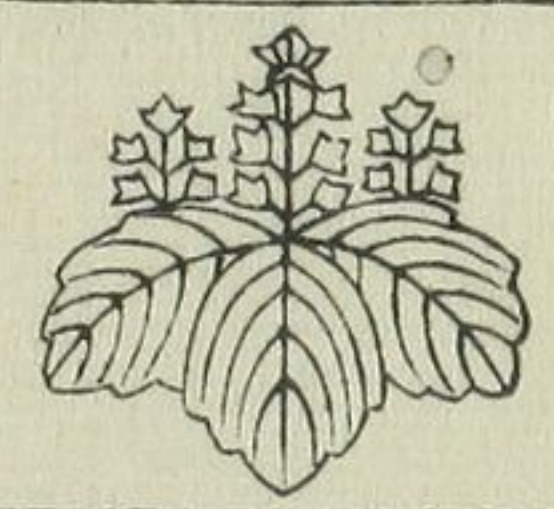
國綱 桐生三郎 入道入而
觀應三築檜杓山城

家老 豊島美作守貞朝 三千貫文

松岡豊前守貞達 千貫文

山田河内守貞良 千貫文

本莊越前守貞英 千貫文



桐生左衛門尉重綱

室 波川相模守義繁女

香華地 山田郡 西方寺

上野 山田郡の内六百七十八町以獲

稻三十三萬九千石 比直錢一万
三百四十貫

女以米一万六千石 不冷量一
万六千石 三百八十九石 一斗一升

二合小
希分

米七千七百八十二石二升八合

兼綱

桐生小太郎
於相模川討死

繁綱

桐生四郎二郎
為兄子家督

友繁

桐生六郎
為繁綱子

信綱

桐生太郎

高綱

桐生小太郎

元義

桐生又太郎左京亮

豊綱

桐生次郎

實佐野國綱三男從

佐野隨卅騎來依為百卅
騎 應永九四廿四年卒

義綱

桐生三郎

正綱

桐生太郎

在俊

桐生左衛門尉

親康

桐生太郎

重綱

桐生太郎左衛門尉

助綱

初直綱改直繼

四貫の割と云は然ふときハ八千二百廿貫文を騎馬礼乃
祿不出し歩士ハ又百廿人一人十二貫のくと云六千二百
四十貫文を合せ一万四千六百六十貫文ハ騎士歩士

六勺七撮ハ 四斗入一万九千二百
六十二俵二升八合余
桐生家領

米八百十九石四斗八升八合六勺
又撮上野守護職新

米七千七百八十石八斗二升八合
六勺七撮ハ 山田郡中の地主龍
舞木町只上茂木

大間々領永境野廣海小倉高
津戸久原桐原市場等の氏族
大連を
領止

録倉館

居城 今田代觀音乃東乃方不
桐生居補と云各古圖不出

居城

野山田郡桐生 藤倉より
二十六里

家老

細川修理亮 下菱村領主

市場左衛門九郎

桐原太郎次郎

矢田堀紀大史

桐生百二十騎乃家と云一騎六十

應仁正徳死後篇一

の禄とち、殘又千七百八十貫文ハ足輕小者以下の用と
去らふ又桐生家長律存子某乃記了足輕の給地ハ四貫
五貫あり九千八百人と見也然らハ又口千二百八十貫文
を出さへ一千人ハ四貫文ハ、さく殘千八百二十貫文を五
分一之二百六貫を行軍の用ハ充之二百六貫を武器の用ハ
當二百六貫を馬の用了あく之二百六貫を屏風の用ハ充
之二百六貫を身の用ハ充ら進一と云里ハ分割ハからハ
派散せし処あろへ。

長野

在原氏

永享十年 家督廿一
長祿二年

平城天皇孫
在原業平十五代

業綱

長野小太郎修理亮
文和三四依將軍命正向
于上野近侍于鎌倉領五千
余町 永徳元七五卒六十四

業行

長野小三郎 兵庫助
應永廿三三卒六十九
長野小八郎 新左衛門尉

業高

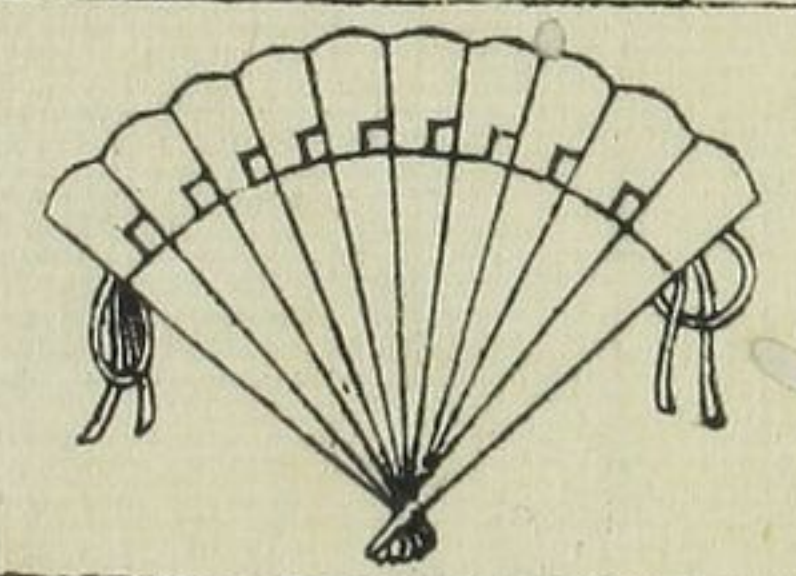
長野小四郎 右京亮
飛騨守 母葛西隆貞女

業景

文明中屬上杉顯定陣五十子
同十八五寶巻合戦先陣討死

業久

長野小三郎
於五十子陣討死廿三



長野右京亮業景

室白倉肥後守定基女

文明十八二五於相州寶
巻原討死

上野群馬

碓氷 吾妻之郡田ハ

又餘町二百八十萬餘石、以直錢
貫文ハ米十二万八千餘石今量
十二万二千二百二十一石二斗ハ

升余ハ
米六万七千八百八十石九升三

應仁武備

女 上杉兵庫助朝家妻

憲業 長野彦次郎 右京亮
伊豫守 天文三七卒

女 和田修理亮重能妻

女 倉知野備前守為廣妻

定俊 藤井典前守

業正 長野信濃守
永祿四十二卒七十一

大森 藤原氏

大織冠鎌足公王代
中關白道隆公長男
内大臣

伊周 藤二内舍人

忠親 藤二内舍人

維康 甲斐守

親康 信濃守 号大沼

親家 大森餘一

頼忠 大森二郎

行頼 大森右兵衛尉

合七勺又撮 石斗入十四万之
千九百八十俵余
長野家領

米六石六十一石六升二合八勺

上野國守護職料

辰城 上野群馬郡箕輪 鎌倉より
四十二里

家老 坂井豊後与友勝

赤不豊前守業宗

町田兵庫助勝興



大森隱岐守實頼

相摸 足柄上下 大住之郡乃内田九

百餘町以獲稻四十萬束以直 錢二

万七千貫文以米二万二千石百

石今量二万千八百十九石八斗

二升 又合 米一万二千六百六十石四斗一升

大森左衛門尉

經賴 大森左衛門尉

維賴 大森信濃守

賴顯 大森信濃守
鎌倉侍所

藤賴 大森式部大夫

賴明 大森信濃守

賴春 大森信濃守

證實 管根別當法印

憲賴 大森伊豆守

氏賴 大森餘一信濃守
寄栖菴

實賴 大森隱山守

藤賴 大森信濃守

憲康 飯田兵庫助

房親 大森播磨守 兵部輔

賴負 大森大和守

女 三浦介時高妻

頭隆 大森式部輔

定賴

六合八勺七撮又 四斗八二万又千
九百十一張余

大森家領

米千九百九十九斗九升一合二勺

又撮相摸守護職料

鎌倉館 大倉

居城 相摸足柄下郡小田原 鎌倉より
十里

家老 波多野源九郎つ尉

曾我兵庫助祐之

風祭左衛門佐



大森左衛門佐持康

相摸 足柄上下 大住三郡の内田

二百四十三町ハ獲稻十七万千

又百束 以直錢一万二百九十貫
又以米八子又百七十又

不今量八子三百十又石
七斗七升七合七勺余

米三子九百四十九石九斗九升

三二

三四

信濃守賴頭長子
藤賴 大森式部入夫

長親 彦六

時親 彦六左衛門尉

時詮 小三郎

持親 三郎

持康 左衛門佐

太田 清和源氏

清和天皇
多田滿仲長男

賴光 正位上左馬權頭

賴國 正四位下左馬權頭

賴綱 藏人從四位下
号桃園

仲政 藏人從五位上兵庫頭
号馬場

賴政 從三位兵庫頭
号昇殿
入道賴國真蓮

仲綱 伊豆守正五位下
号昇殿

廣 太田駿河守
實賴政子

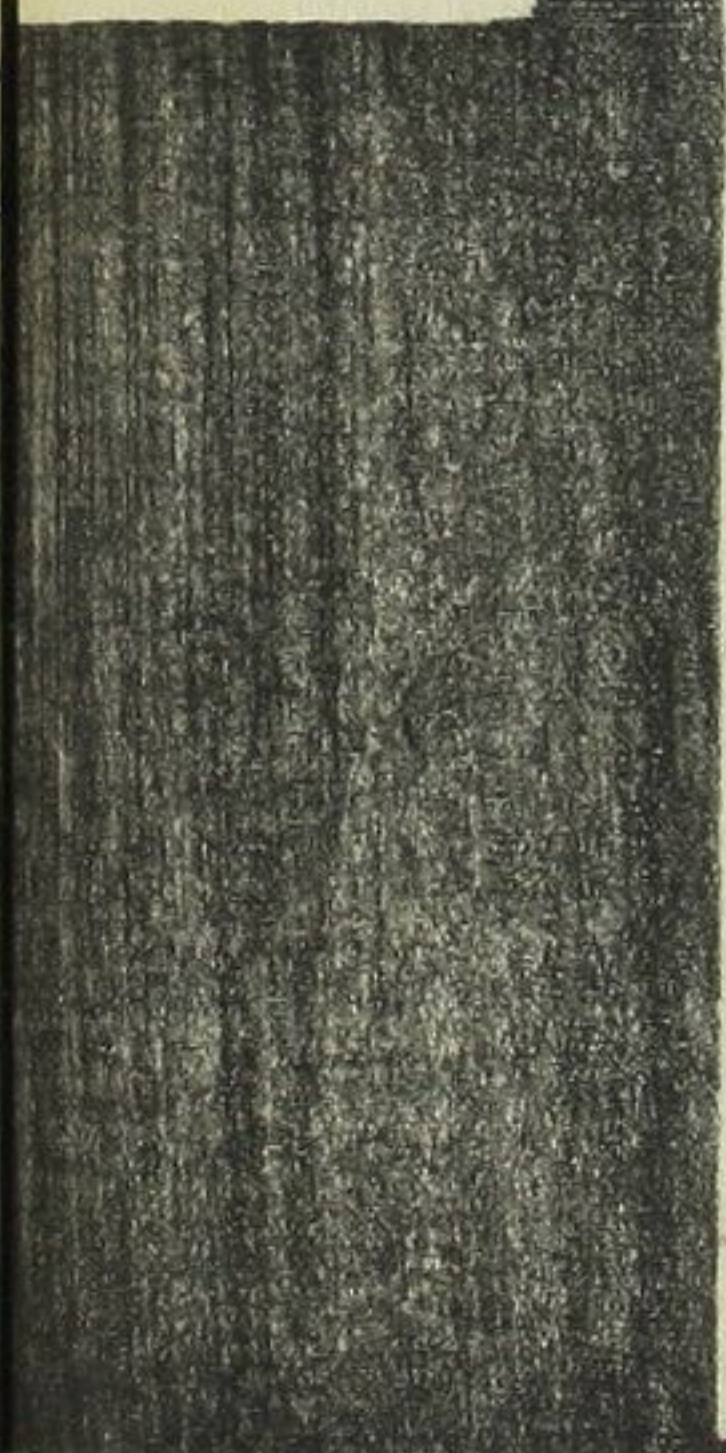
旧合江白 田子八百
七十俵外 大森
家領

米百十八石七斗八升余相摸
守護職料

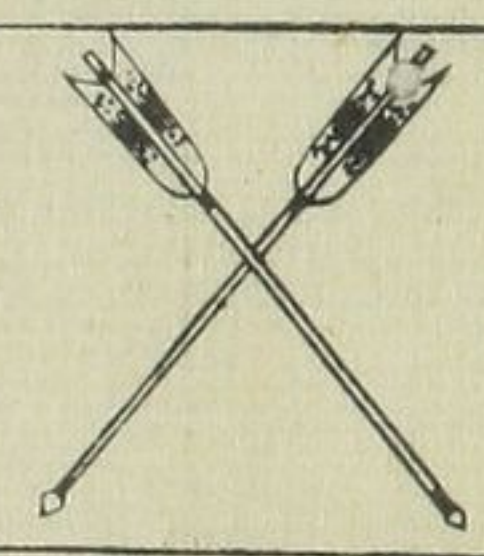
新倉小町

居處相摸足柄下郡宮下

家光



永享四年生子 生
室德三年 月 備中守 廿歲



太田左衛門大夫尉持資

文明十八年七月廿六日
傷害五十五歲

相摸 鎌倉郡 高座郡 大住郡等

乃内 武藏 都筑郡 埼玉郡 荏

原郡 豊島郡 乃内と云共田畝乃

町段未詳或道灌又十騎又ハ七十

又騎と云或ハ太田家妻を盡す

右衛門尉

隆

左衛門尉

主御門院賜丹波五箇庄

國綱

播津守 丹波太田住人

称太田 文永中移相外

資治

伊豆守

入道道穂

資兼

太田太郎 大和守

入道道仙

資房

太田左衛門尉

入道道若

資清

太田源六郎 左衛門尉

備中守 入道道真

住武列郡筑郡太田郷因

称太田

持資

太田源六郎 左衛門大夫

備中守 入道道准

資常

太田圖書助

資忠

太田大和守

資雄

太田源五郎

禪悳

叔悦 武藏足立郡藤浪

家源院住

資康

太田源六郎

法名法恩齋道源惠

資行

太田源三郎

日遵

本園寺十三世

資家

太田信濃守 左京大夫

資

太田美濃守

入道道可

三千不足と云ふ依り推考

一萬貫小千八百八十人乃法

就見之ハ二千人一萬九千三

百六十貫文餘小南家田折

八百八十町六段二畝許小准

獲稻廿九萬三百十束 米一萬

石八斗分量一萬二千七十六石

六斗九升六合四勺三撮八余

米六千六百八十六石四斗三升余

斗八一万六千七百七十六石

撮余武藏守護職新

鎌倉館 扇谷源氏山

居城 武藏豊島郡江戸 鎌倉 十三里

家老 金子掃部介

佐派大學助

齋屋小四郎

或云太田道准乃軍賤田二段小兵

糧之升を充て千石川を蓄ふ

資正

太田美濃守 民部大輔
入道三樂

資忠

潮田出羽守 大官壽能
城主

資房

太田大膳亮 岩槻城主

政景

梶原源太 美濃守

資時

太田源四郎

資高

太田源六郎
法恩寺開基

資貞

太田源三郎

康資

太田源六郎
武菴入道

江戸

藤原氏

田原藤太秀卿四男
左衛門尉文行四男

公通

相摸守
常陸那珂郡薩都地頭

成時

佐野太郎

通成

薩都荒大夫
号小野崎

通春

薩都小三郎

胤泰

薩都三郎太郎

通家

薩都太郎

通信

那珂八郎



江戸但馬守通勝

常陸

茨城 新治二郡乃内田二子

百六十町獲稻百七萬八千束
錢六万石又百貫文以米六万
石七石又十石今量又万二石
百廿石一斗三升七合六勺
米二万石又七百九十九石

か中一段之外の法不唯も納田
二千二百二十町三段餘入
若け田あらは守護料を除く米
三千八百二十八石二斗八升
又九百石を収むへ其信を
又十俵余

通武 那珂三郎

通輝 那珂中太

胤幹 那珂八郎

通幹 江戸孫太郎

通泰 那珂五郎江戸但馬守

胤通 江戸彦五郎

通勝 江戸但馬守

女 大掾清幹妻

通房 江戸但馬守

通榮 額田伊豫守

義通 額田下野守

成通 額田伊豫守

篤通 額田久兵衛

通鶴 江戸彦三郎

勝道 江戸但馬守

忠通 江戸彦太郎但馬守

重通 江戸彦五郎 元龜元
十二廿元服 永祿四八四
位下但馬守

田升余 田斗入 〇千八百
九十八俵二〇余
家領

米二石六斗六升二斗八升六合
八勺余常陸守護職折

鎌倉館

居城 常陸 郡江戸 鎌倉より 八十二里

家老 那珂八郎右衛門尉通勝

下江戸三郎兵衛尉通勝

石井右衛門五郎正幹



江戸三郎通幹

常陸 茨城郡の内田祿考小外郎

志と云共其家小傳ふ外所百騎

乃兵を領せと云ハ其軍賊六千

貫不及ハ一歩士すこに百人よ

里城をハルハ然ハ緑也

江戸

桓武平八

桓武天皇四代
高望王六代孫

國幹

那珂太郎
住那珂郡

公幹

太郎

忠幹

四郎 住江戸

清俊

江戸太郎

幹清

江戸太郎

幹之

四郎

固幹

四郎 左衛門尉

重幹

五郎

秀幹

三郎

通幹

三郎

辰城常陸

郡下江戸

家光

深谷玄蕃元

幹高

三郎

親幹

三郎

千貫不唯是彼是語一ノ内貫
ノ餘子ノ内多ク是ハ今乃之百
餘町分ハ多クト由考證を治
也

大花咲屋新之助

